中学３年　国語科　教材別テスト⑦　模範解答・解説

教材別リメイク版　中学３年　国語　／　「夏草―『おくの細道』から」（松尾芭蕉）／光村図書『国語３』

【このテストの使い方】

本文は載せていません。**教科書『国語３』の「夏草」のページを開いたまま**解答します。この教材は、**古文の読解**と**俳句の鑑賞**が重なった、中学三年でもっとも手ごたえのある古典教材です。設問は、①歴史的仮名遣いと古語の意味、②『おくの細道』についての古典の知識と俳句の形式、③地の文と俳句を結びつけて読む力、の三つに分けて作っています。**記述問題は、文末の形（「～こと。」「～という気持ち。」「～という感慨。」）までそろえて書く**ことを習慣づけてください。

配点一覧

観点	大問	内容	配点
知識・技能 50点	一	漢字の読み書き（20問）	１点×20＝ 20点
	二	歴史的仮名遣い（４問）と古語の意味（５問）	２点×９＝ 18点
	三	古典の基礎知識（成立・ジャンル・作者・同行者・蕉風）と俳句の形式（音数・切れ字・季語）	12点
思考・判断・ 表現 50点	四	「夏草―『おくの細道』から」の読解（全12問）	50点
合計			**100点**

【出題のねらい】

①　歴史的仮名遣い（**ぢ・づ・は行の音**）を現代仮名遣いに直せるか。答えが一つに定まるものだけを出題している。

②　「古人・田野・義臣・旧跡・時のうつるまで」など、**この教材に出てくる古語**の意味をおさえているか。

③　『おくの細道』の**成立（江戸時代前期）・ジャンル（紀行文）・作者（松尾芭蕉）・同行者（河合曽良）・出発地（江戸深川）**と、俳句の**五・七・五／季語／切れ字**という基礎を押さえているか。

④　**かつての栄華と現在の荒廃**という対比をとらえ、二句にこめられた感慨を自分の言葉で書けるか。

⑤　**不易流行**（変わらないもの／移り変わるもの）という芭蕉の思想を、二つの句に結びつけて説明できるか。

一　漢字の読み書き　（１点×20＝20点）

番号	解答	番号	解答
①	りょてい	⑪	峠
②	はいかい	⑫	宿泊
③	ひょうはく	⑬	風景
④	えいが	⑭	戦場
⑤	むじょう	⑮	兵士
⑥	あと	⑯	続く
⑦	おとろ（える）	⑰	滅びる
⑧	おうしゅう	⑱	緊張
⑨	いせき	⑲	永遠
⑩	さみだれ	⑳	震える

小計　20点

【注意したい字】

②「俳諧」の「諧」はごんべん。「俳偕」「諸」との書き誤りに注意。③「漂泊」は「ひょうはく」。「漂白（＝白くする）」と意味がちがうので、漢字も読みも区別する。④「栄華」は「えいが」。「えいか」としないこと。⑤「無常」は「むじょう」で、「無情（なさけがない）」とは別の語。⑩「五月雨」は**熟字訓**で「さみだれ」。「ごがつあめ」は×。⑦⑯⑰⑳は**送りがなまで**必要（衰える／続く／滅びる／震える）。⑪「峠」は山へんに「上・下」。⑫「宿泊」の「泊」はさんずいに「白」。⑭「戦場」は「戦」と「場」の形に注意。⑱「緊張」の「緊」は「臣」「又」「糸」から成る。⑰「滅びる」は「滅」と形が似ているので注意。

二　歴史的仮名遣いと古語の意味　（2点×9＝18点）

番号	解答	解説
(1)	**まず**	歴史的仮名遣いの「**づ**」は、現代仮名遣いでは「**ず**」になる。「まづ」→「まず」。
(2)	**いずれ**	同じく「づ」→「ず」。「いづれ」→「いずれ」。「いずれの年よりか」＝「どの年からだったか」の意味。
(3)	**ゆきかう**	語中・語尾の「**ふ**」は「**う**」になる。「行きかふ」→「ゆきかう」。**すべてひらがな**という指示があるので「行きかう」は×。
(4)	**さそわれて**	語中・語尾の「**は**」は「**わ**」になる。「さそはれて」→「さそわれて」。「あはれ」→「あわれ」も同じきまり。
(5)	**ア**	「古人」＝**昔の人**。「古人も多く旅に死せるあり」は、西行・宗祇など、昔の人も旅の途中で亡くなったという意味。イ「年老いた人」と混同しないこと。
(6)	**イ**	「田野」＝**田畑や野原**。「秀衡が跡は田野になりて」は、かつて栄えた秀衡の屋敷の跡が、今は田畑や野原になっているということ。
(7)	**ウ**	「義臣」＝**忠義をつくす家来**。「さても義臣すぐつてこの城にこもり」は、えりすぐりの忠義の家来たちがこの城にこもって戦ったという意味。
(8)	**ウ**	「旧跡」＝**昔、事件や建物があった所**。「泰衡らが旧跡」は、藤原泰衡らの館などがかつてあった跡地のこと。
(9)	**エ**	「時のうつるまで」＝**長い時間がたつまで**。笠を敷いて腰をおろし、時がたつのも忘れて涙を流した、という作者の深い感慨を表す。

小計　18点

三　古典の基礎知識と俳句の形式　（12点）

番号	解答	解説
(1) 2 点	**ウ**	『おくの細道』は**江戸時代前期**（元禄期）の作品。芭蕉の旅は一六八九年（元禄二年）、作品の完成はその後である。平安（枕草子・源氏物語）、鎌倉（方丈記など）との区別をつけておく。
(2) 2 点	**イ**	地の文（散文）で旅の道中を記し、ところどころに俳句を置く**紀行文**（**俳諧紀行**）。「随筆」「物語」ではない。
(3) 2 点	**河合曽良**	作者は**松尾芭蕉**、同行した弟子が**河合曽良**。「**曽良**」だけでも正答とする。「曾良」の表記も可。「曽長」「曹良」は×。
(4) 2 点	**ア**	芭蕉が確立した俳諧の作風を**蕉風**（**しょうふう**）という。貞門・談林は芭蕉より前の俳諧の流派、天明調は江戸中期の与謝蕪村らの作風。蕉風の理念として**さび・しをり・細み**、そして「**不易流行**」（変わらない本質と、移り変わる新しさの両方が必要だという考え）を覚えておく。
(5) 1 点	**イ**	旅は**江戸の深川**を出発し、奥州・北陸をめぐって大垣に至る。
(6) 1 点	**十七**	俳句は五・七・五の**十七音**（十七音節）。漢数字で書くこと。「17」も内容が合っていれば可。
(7) 1 点	**や**	「夏草**や**兵どもが夢の跡」の「や」が**切れ字**。切れ字は「や・かな・ぞ・けり」などで、句にいったん切れ目をつくり、感動の中心を示す。
(8) 1 点	**季語…五月雨／季節…夏**	「五月雨」は旧暦五月、つまり梅雨のころの長雨で、季節は**夏**。「春」「梅雨」は×。**両方そろって1点**（部分点なし）。なお「夏草や」の句の季語は「夏草」で季節は夏。

小計　12点　／　知識・技能　合計　50点

【歴史的仮名遣いを直すコツ】

① 語中・語尾の「**は・ひ・ふ・へ・ほ**」→「**わ・い・う・え・お**」(思ひ→おもい、行きかふ→ゆきかう)。② 「**ゐ・ゑ・を**」→「**い・え・お**」。③ 「**ぢ・づ**」→「**じ・ず**」(まづ→まず、いづれ→いずれ)。④ 「**む**」→「**ん**」。語の**先頭**の「は」は変えない(「はべり」はそのまま)ことに注意。

四　「夏草―『おくの細道』から」の読解　（50点）

番号	解答	解説・採点のポイント
(1) 3 点	**ア**	「月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり」＝年月そのものが旅人のようだ、ということ。そこから「**人生そのものが旅である**」という、芭蕉の根本の人生観が示される。イ「急いで生きるべき」のような教訓の話ではない。
(2) 5 点	**（例）人生そのものが旅だと感じ、自分も旅に出たいという気持ち。（28字）**	「**人生＝旅という見方（無常観）**」（３点）＋「**旅に出たい（旅へのあこがれ・漂泊の思い）**」（２点）の二点で採点。 「旅行が好きだという気持ち」のように、**無常観にふれていない**ものは２点まで。文末が「～という気持ち。」になっていないものは－１点。二十五～三十五字から外れたら－１点。
(3) 3 点	**イ**	平泉を本拠に栄えた**奥州藤原氏**（清衡・基衡・秀衡）の三代。源氏・平氏・徳川家ではない。場面が**平泉**であることをおさえる。
(4) 5 点	**（例）藤原氏三代の栄華が、ひと眠りの夢のようにはかなく消えたこと。（30字）**	「**三代（藤原氏）の栄華**」（２点）＋「**ひと眠りの夢のようにはかなく消えた**」（３点）の二点で採点。 「一睡」を「ひと眠り・わずかな時間」と言いかえられているかが分かれ目。**原文をそのまま書き写しただけ**のものは０点。文末が「～こと。」でなければ－１点。二十五～三十五字から外れたら－１点。
(5) 3 点	**イ**	中国・唐の詩人**杜甫**の「**春望**」の「国破山河在　城春草木深」を踏まえた表現。芭蕉の自作でも、『論語』でも、故事成語でもない。
(6) 5 点	**（例）中国の古典と重ねることで、国の興亡のはかなさに格調と普遍性をもたせる効果。（37字）**	「**有名な漢詩（中国の古典）と重ねる**」（２点）＋「**格調が高まる／普遍的な（いつどこでも通じる）感慨になる**」（３点）の二点で採点。 「かっこよく見える」だけは１点。「平泉の荒廃を、国の興亡という大きな歴史の中に置いて感じさせる」も正答。三十～四十字から外れたら－１点。

四　「夏草―『おくの細道』から」の読解　（つづき）

番号	解答	解説・採点のポイント
(7) 3 点	**ウ**	「高館」は、**源義経**が居館とし、最期を遂げた所と伝えられる。源頼朝は義経の兄で鎌倉幕府を開いた人物、平清盛は平氏の棟梁、徳川家康は江戸幕府を開いた人物で、いずれも高館とは結びつかない。
(8) 6 点	**（例）激しく戦った武士たちの功名も今は夏草の下に消え、夢のようだという感慨。（35字）**	「**武士（兵）たちが戦い、功名を争った**」（２点）＋「**今は夏草がしげるだけで何も残っていない**」（２点）＋「**すべては夢のようにはかない**」（２点）の三点で採点。 季語「**夏草**」（夏）と切れ字「**や**」を手がかりに、**生命力あふれる夏草**と**消えた人間の営み**の対比をつかませたい。「草がしげっている」という**情景の説明だけ**は２点まで。文末が「～という感慨。」でなければ－１点。三十～四十字から外れたら－１点。
(9) 3 点	**イ**	「光堂」は、平泉の**中尊寺金色堂**のこと。堂全体が金色にかがやくことから「光堂」と呼ばれた。句は、長い年月の五月雨（風雨）が、まるでここだけは降り残したかのように、**光堂だけが朽ちずに輝きを残している**ことへの感動をうたう。ア毛越寺は庭園で名高い寺、ウ金閣は京都、エ東照宮は日光で、いずれも別の場所。
(10) 6 点	**（例）移り変わる人の世の栄華と、時を超えて変わらない光堂とが、対照的に描かれている。（39字）**	「**夏草の句＝移り変わる・消えていくもの（流行）**」（３点）＋「**光堂の句＝時をこえて変わらないもの（不易）**」（３点）の二点で採点。 二句を**対照的に並べていること**に気づけているかが最大のポイント。片方しか書けていないものは３点。「不易流行」という語を使っただけで中身のないものは０点。三十五～四十五字から外れたら－１点。
(11) 3 点	**イ・ウ**	イ…漢語と**対句**を多く用いた**和漢混交**の文体で、きびきびとした格調の高い調子になっている。ウ…**地の文で語り、俳句で結ぶ**という構成が、感動を一点に集めて強く印象づける。ア「和語だけ」、エ「俳句だけ」、オ「会話文中心」はいずれも誤り。**二つそろって３点（完答）**。

四　「夏草―『おくの細道』から」の読解　（つづき）

番号	解答	解説・採点のポイント
(12) 5 点	**（例）形あるものはいつか失われるが、だからこそ今ある時間や人との出会いを大切にしたいと思う。(43字)**	【ルーブリック】 A（５点）…「無常」＝**すべては移り変わる**という内容を正しくとらえ、そのうえで**自分の考え（どう生きたいか・どう感じるか）**を、理由とともに書けている。四十～五十字。 B（３～４点）…無常の内容は正しいが、自分の考えが一般的・あいまい（「はかないと思う」だけ）。または字数が範囲から少し外れている。 C（１～２点）…本文の内容をなぞっただけで、自分の考えが書かれていない。 D（０点）…無常を「なさけがない（無情）」など**別の意味**でとらえている。無記入。 ※賛成・反対のどちらでもよい。「変わるからこそ美しい」「変わらないものもあると思う」なども正答。四十～五十字から外れたら－１点。

思考・判断・表現　合計　50点　／　総合　100点

【この教材で落としやすいポイント（８つ）】

1. 冒頭「月日は百代の過客にして」は、単なる旅の前書きではなく、**人生そのものを旅と見る無常観**の宣言である。ここが作品全体の土台。
2. 「三代」は**奥州藤原氏**（清衡・基衡・秀衡）。源氏・平氏と混同しやすい。場面は**平泉**。
3. 「一睡」＝**ひと眠り**。百年近い栄華を「ひと眠りの夢」と言いきることで、はかなさが最大になる。
4. 「国破れて山河あり」は**杜甫「春望」**を踏まえた表現。漢詩を重ねることで**格調と普遍性**が生まれる。
5. 「夏草や兵どもが夢の跡」の**季語＝夏草（夏）／切れ字＝や。生命力ある夏草**と**消えた人の営み**の対比をおさえる。
6. 「五月雨の降り残してや光堂」は、**朽ちた**のではなく**朽ちずに残った**ことへの感動。読み違いが最も多い句。
7. 二句を並べると、**消えるもの（流行）と残るもの（不易）**という**不易流行**の思想が浮かび上がる。

8. 文体は**和漢混交**で**対句・漢語**が多く、構成は**地の文＋俳句**。記述では**情景のなぞりで終わらせず**、必ず「〜こと。」「〜という感慨。」の形で感慨・意味までまとめること。